

70 松方コレクション (2021年7月1日)

写真の絵は、オルセー美術館が所蔵するファン・ゴッホ作の「アルルのゴッホの寝室」です。オルセー美術館に展示されているヨーロッパ人の画家が描いた作品ですので、日本とは関係がなさそうに見えます。しかし、実は歴史的に日本と関係のある作品なのです。



« La Chambre de Van Gogh à Arles »
Vincent VAN GOGH
ゴッホ「アルルのゴッホの寝室」

日本の国立西洋美術館には、神戸の川崎造船所（現在の川崎重工業株式会社）の初代社長を務めた松方幸次郎が、1910年代半ばから1920年代半ばにかけてロンドンやパリなどで買い集めた西洋の絵画、版画、彫刻、装飾芸術品などから成る「松方コレクション」があります。松方には、日本に最初の西洋美術館を作るという夢がありました。松方は、3000点近くの美術品を蒐集し、さらに海外に流出していた約8000点の浮世絵を買い戻しましたので、コレクションは1万点を超えていました。

しかし、1923年の関東大震災とそれに続く昭和金融恐慌のあおりを受け、1927年に川崎造船所が経営破綻に陥ったことから、松方の美術館建設計画は頓挫しました。コレクションは散逸し、パリで保管されていた400点余りは、第二次世界大戦末期にフランス政府の管理下に置かれました。1950年に始まった日仏政府間の交渉の末、1959年に375点が日本政府へ寄贈返還されました。この時フランスに残された20点の作品の一つが、「アルルのゴッホの寝室」なのです。

日本に寄贈返還されなかった作品については、もう一つ別のお話もあります。2016年、偶然にもルーブル美術館の倉庫から、破損した状態でクロード・モネ作「睡蓮、柳の反映」が発見されました。これは、松方コレクションの一つであったことが確認されました。オランジュリー美術館に展示されている「睡蓮」の大装飾画を構想するために作られた作品だと考えられています。この作品は、ルーブル美術館から松方のご遺族に返還され、ご遺族から国立西洋美術館へ寄贈されました。2019年にこの作品が初公開された際には、日本で話題となりました。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

フランスで活躍した画家が描いた素晴らしい絵画は、20 世紀の歴史と共に今に伝えられています。

(※以下は、オルセー美術館に展示されている旧松方コレクションの作品)



« Justine Dieulh »
Henri de Toulouse-Lautrec
ロートレック
「ジュスティヌ・デュールの肖像」



« L'Atelier de Schuffenecker »
Paul GAUGUIN
ゴーガン「シェフネッケルの家族」